

コミュニケーション

OMORIYAMA
ZOO
NEWS

2004・OCT

No.67 **10**



レッサーパンダ

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

HOT INFORMATION

ほっといんふおめーしょん

大森山
動物園初!

レッサーパンダの 赤ちゃんがデビュー!



7月に生まれたレッサーパンダのふたごの赤ちゃんが、10/1から室内展示場にお目見えしました。ふわふわと柔らかそ

うな毛並みの赤ちゃんはお母さんのお乳を飲んだりじゃれたり、所狭しと遊んでいます。今は室内のほか屋外にも展示していますので、その愛くるしい姿を是非ご覧ください。

大森山
動物園初!!

カナダヤマアラシの 繁殖に成功!



7月にカナダヤマアラシのメープルに待望の赤ちゃんが生まれました。カナダヤマアラシの繁殖は当動物園初の出来事です。赤ちゃんの誕生は雄のユタカと夫婦になって3年目の出来事。これからの成長が楽しみです。

普段は木の上にちょ

こんと乗っていますので見逃さないでね。

大森山写生大会を振り返って

御所野学院中学校

教諭 伊藤 知佐子 先生

動物の声や制作者の気持ちが伝わってくる作品がいっぱい。

とても楽しく、心踊るような気持ちで、審査させていただきました。

絵を見ている側に、描き手の思いが伝わってくるような作品が多く、題名の付け方にも工夫が見られました。《親と子のふれあい写生大会》という大会名通り、制作中も親子で一生懸命、絵に向かっている様子が見られ、大変ほほえましく感じました。

● 市長賞の小2：高田 朱 莉 (たかだあかり) さんの作品「ゆめみるフラミンゴ」



あかりさんのフラミンゴへの思いがよく表されています。

さんの作品「ゆめみるフラミンゴ」は、動きのある大胆な構図と混色による鮮やかな色彩がさわだった作品でした。遠近感のある構図で、生き生きとしたフラミンゴを表現しており、背景処理も見事なものです。また、「ゆめみるフラミンゴ」という題名の付け方にも、

● 市議会議長賞の5歳：みうらたいすけくんの



作品「つよいぞとらさん」は、題名通り、「おれは強いんだぞ、どうだまいったか…」という虎の声が聞こえてきそうな迫力ある作品に仕上がりました。強化ガラスを通して、近距離で見ることができる、虎の迫力ある表情や動き、雰囲気をよく観察して、画面いっぱいにのびのびととらえています。

作品「つよいぞとらさん」は、題名通り、「おれは強いんだぞ、どうだまいったか…」という虎の声が聞こえてきそうな迫力ある

中学生や大人の方の参加者が増えた。常連さんも?

例年に比べ、中学生＆一般の方の参加が大幅に増え、レベルの高い作品が多数あり、甲乙付けがたく審査に大変迷いました。それも、毎年参加している「常連さん」がいるおかげと感じました。是非、来年も、親子で参加していただきたいと思いました。

夏の行事結果と案内

写生大会



▲トラさんそのままじっとしてね

7月27日の第27回写生大会は、30度を超える暑さの中での開催となりましたが、合計582点もの出品がありました。

参加されたみなさま、大変お疲れさまでした。

サマーズーキャンプ



▲ヒツジの爪きり作業風景

8月3日、4日の一泊二日で行われました。飼育体験はもちろん夜の動物園ツアーや、早朝の大森山公園散策など実施しました。参加した15名の子どもたちは、2日目の朝さすがに眠そうだったものの、全員無事に最後まで日程をこなしました。

開園時間延長 ～動物たちのディナータイム～

7月24日、31日、8月7日と3週連続で土曜日の開園時間を午後7時（通常午後4時30分）まで延長しました。この3日間は特別に「動物たちのディナータイム」として、普段見られない猛獣のお食事をはじめ、ゾウ、キリン、ペンギンなどいくつかの動物たちの夕食風景をご覧いただきました。最終日の8月7日には日新小学校吹奏楽部による演奏会と、ベル・ヴィエントスによるフォルクローレのイブニングコンサートも行われました。（8Pに写真を掲載しています）

夜の動物園

～ナイトズーフエスティバル～

お盆の夜恒例のイベントとなった夜の動物園が今年も8月14日、15日に開催されました。天候にも恵まれ2日間で合計9,020人の方にご来園いただきました。両日ともクイズラリーやサル山への餌やり体験、動物のお食事観察など、どれも楽しんでいただける内容でしたが、中でも「ゾウのスイカ割り」と題されたイベントでは、オスのダイスケ君が大きなスイカを割ることなく一口で食べてしまうという『予定外の行動』を見せ、「おおっ～」っという歓声がかかる場面もありました。（昨年までは足で割ってから食べていました）



▲スイカを丸ごと食べるダイスケ君

ガイドブックが新しくなりました



全40頁カラー化を含めた大幅リニューアルで新しく生まれ変わりました。ゾーンマップで現在地を確認しながら動物について楽しく学べる内容となっています。

販売は動物園正面ゲートにて、一部300円

目次

| | |
|---------------------|-----|
| 表紙 レッサーパンダの親子 | 1 |
| ホットインフォメーション | 2～3 |
| 特集 | 4～5 |
| 飼育レポート、動物病院から | 6 |
| 飼育日誌・編集後記 | 7 |
| かたばた通信 | 8 |

特集

大森山にあった「淡水魚の聖域」 ～塩曳潟の水生物調査から～



▲大森山山頂を望む調査地塩曳潟

現在、動物園が取り組むべき自然環境保護は、展示動物を通しての多様な自然環境の重要性を訴えるだけでなく、種の保存等に結びつくような、より具体的な活動が求められています。今回は、園内にある塩曳潟の水生物調査を通して、自然環境の保護について考えてみました。

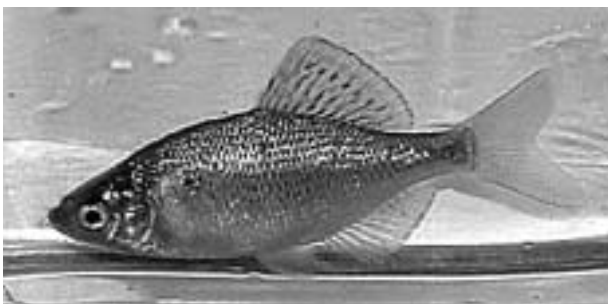
獣医師 高橋 広志

塩曳潟をのぞいてみると...

去る9月11日に園内にある塩曳潟の水生物調査を行いました。目的は、絶滅が危惧されている淡水魚の生態を調査し、希少淡水魚の保護に結びつけるためです。秋田淡水魚研究会等の方々との協力を得て、池に定置網やもんどり（網かごのようなもの）などの仕掛けを設置し、かかった水生物を調べると様々な魚の中に、環境省で作成しているレッドデータブック（※）に掲載されているゼニタナゴやシナイモツゴなどが生息していることが確認されました。

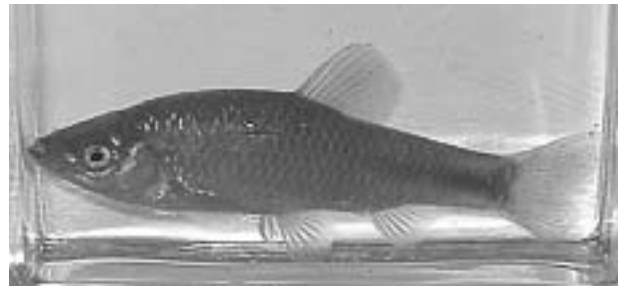
塩曳潟で確認された淡水魚

ゼニタナゴ



神奈川県、新潟県以北の本州に分布し、浅い湖沼や池、水草の繁茂する水路などに生息、日本産のタナゴ類の中で最も鱗が細かいのが特徴です。秋にドブガイなど二枚貝に産卵します。秋田県内では、ほんの数ヶ所しか確認されていません。

シナイモツゴ



東北、中部地方の一部に分布、ため池や水路などに生息します。水草の茎や水中の小枝などに産卵し、雄が縄張りをつくり保護します。ゼニタナゴ同様県内では、絶滅が危惧されています。

トウヨシノボリ



日本各地に生息、俗称ゴリと呼ばれています。形態はごく一般的なハゼの形をしており、腹鰭は変形して吸盤状になっています。タナゴが産卵するドブガイ（塩曳潟に生息）の増殖に深くかかわります。

ゼニタナゴ、ドブガイ、トウヨシノボリの微妙な関係

ゼニタナゴは、ドブガイのような二枚貝の中に産卵するという特殊な生態をもっています。秋にメスは長い産卵管を伸ばし、貝の中に卵を産みます。卵は、貝の中で孵化し、成長して翌年の春に貝から出てきます。またドブガイは、雌貝の中で受精卵は、幼生（グロキディウムという）となり、ヨシノボリなどのエラやヒレにくっつき成長し、稚貝になると水底に落ちて自由生活に入ります。

このように、三者は、生活環を形成する過程でなくてはならない関係を築いています。 どれか一者でも減少すると他の二者に多大な影響を与えることとなります。

地元小学生と地引網



▲調査の様子から

10月9日には、地元の浜田小学校の児童、父兄、先生方17名に協力していただき、地引き網を用いた調査を行いました。これは、すばらしい自然環境を実際の調査を体験してもらい感じてもらうという試みでした。

地引き網は大漁で、児童たちは目を輝かせながら、網の中をのぞき込んでいました。

また、専門家の方から、塩曳潟の珍しい魚たちの生態を楽しく学びました。

最後に

調査を実施して、塩曳潟に生息する生物たちの密接なつながりを目の当たりにして、改めて自然の微妙なバランスに驚かされました。それと同時に、そのつながりを担う一つの生物が絶滅の危機に瀕しているということは、その生息環境がバランスをくずしつつあることでもあると、強く感じました。

個々の絶滅危惧種のみを保護してもその種を救うことは出来ません。その生息環境全体を保全することが、その種を救う手助けとなるのです。

動物園は、地球上の希少な動物の「種」の絶滅を防ぐ、種の保存事業を担っています。大森山動物園は、今回の調査のような地域に密着し、より具体的な活動を通して、自然環境保護の精神を地域住民の方に伝えていきます。

野生動物保護募金 “ペンギン募金”

社日本動物園水族館協会は動物の展示にとどまらず、野生動物の保護活動に寄与するため、様々な活動を展開していますが、その活動を支えるための野生動物保護募金を実施しています。今回の調査はその助成を受け行われたものです。目印はペンギン型の募金箱です。



▲塩曳潟全景

※レッドデータブックって何？

レッドという言葉からは、例えばレッドカードやレッドゾーンなどのように、危険な、危機的なというイメージを連想しますが、まさに種の存続が危機的な状況にある野生動物をリスト化し、生息状況などをとりまとめたものをレッドデータブックといいます。

ゼニタナゴ、シナイモツゴは、レッドリストの中で絶滅危惧種ⅠB類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）に分類されています。また、秋田県版レッドデータブック2002年によれば、秋田県内ではいずれもⅠA類（ごく近い将来絶滅の危険性が高い種）に分類されています。

コウノトリの同居

飼育展示担当 千葉直子

コウノトリは、ペア形成が非常に難しいとされています。当園でも1年以上ネットの仕切越しに見合いを続けてきました。今年の秋には同居展示にするつもりでいましたが、同居のタイミングがわかりません。そこで、9月6日に健康診断をしてパニックになった2羽を同居させようと計画していました。

ところが、台風の通過した9月1日にタイサ（♂）がヒメ（♀）の展示場に侵入し…あっけなく、同居が成功していました。

人為的に、同居させるよりもこのままの状態を維持する方がいいと判断し、仕切ネットを全て撤去し観察してきました。

同居当初は、オスの採食が観察できなかったものの、その後の観察で2羽の採食も確認され、現在では2羽の距離は以前より近づき餌場に一緒にいる所も観察されています。

また、同居後一番の変化としてメスのクラッタリング行動が見られるようになりました。これが、警戒によるものなのか繁殖行動につながるものなのかは今はわかりませんが、このまま、順調に2羽がペアになってくれることを期待しています。



動物病院から

ジェーンに

獣医師 高橋広志



「飼育係として一番うれしいことは？」と質問されれば、たいていの飼育係は「担当動物に子供が生まれること」と答えます。動物園に来て5年目、ようやくその喜びを味わうことができました。今年の8月19日、担当しているチンパンジーのジェーンに子供が生まれたのです。しかもジェーンは37歳で、国内のチンパンジーでは最高齢出産記録というおまけ付きです。オリンピックの真っ

最中ということもあり、チンパンジー担当者みんなで金メダルを取ったかのように喜びあいました。

初めて見るチンパンジーの子供は、人間の赤ちゃんそっくりでとても愛らしく、普段はふてぶてしいジェーン表情もどこか母親の優しさを湛えてみえます。いちばんの心配事は、13年ぶりに出産したジェーンに果たして子育てができるのかでしたが、子供が泣くとすぐに抱き上げて乳首を吸わせるなかなかの母親ぶりで安心して見ていられました。

ところが喜びも束の間、生まれてから12日目に子供が死亡しているのを発見しました。ジェーンの年齢はヒトでいうと60~70歳にあたります。上手に育てているように見えても、母乳が十分与えられず衰弱死させてしまったようです。

死んでしまっても、ジェーンは子供を大事に抱いて離そうとはしません。日に日に子供の死体は腐敗し、毛が抜けて、内臓は溶け出し、最後は骨と皮だけの干物のようになってしまいました。そんな形になっても、ジェーンは行く先々に大切な宝物のように持ち運び手放そうとはしません。「子が死んだことを理解できない」という覚めた見方もありますが、私は間近で見ていて、「たとえ姿形は変わってしまっても我が子を誰にも渡したくない」という究極の母性を感じました。

子どもが死亡して約2週間後の朝、いつものようにジェーンの檻に近づくと、あんなに大事にしていた子供（といっても骨と皮だけの）を、静かに格子まで持ってきて私に手渡してくれました。私は自然に「ありがとうございます」と言っていました。

飼育日誌より

04.7.1 ~ 04.10.8

- 6/15 ☀ シフゾウの発情行動確認。
 6/16 ☀ オオバタン工事の騒音で驚いたのか、割れた卵の殻が落ちていた。まだ、巣箱に入っているの、卵はあるものと思う。
 6/17 ☀ リスザルNo. 13退院。戻したあと、問題なく過ごす。
 6/18 ♣ ダイアナモンキー♀ (2003. 4. 9 円山Zo o生)、19:00到着。B/W1.22kg。
 6/19 ☀ ヒメウズラ親群と同居させたヒナ2羽、攻撃され負傷。その後1羽死亡。
 6/22 ♣ ソリガメ♀ 1頭死亡。
 6/26 ☀ ノドジロオマキザルナナエ、出産。
 7/1 ☀ ダイアナモンキーウメ♀と新個体♀を同居に向けて、お見合いさせる。
 7/6 ☀ シフゾウ交尾確認。射精には至らず。キジ舎フクロウ、ネズミを捕まえるようになった。
 7/8 ♣ チンチラ暑さのため、病院へ引っ越し。
 7/14 ☀ コモンマーモセットRペア、2仔出産。
 7/15 ♣ レッサーパンダナナの寝部屋、仔の鳴き声らしき声が聞こえた。
 シマウマ仔、羽村市動物公園へ搬出。
 7/17 ☀ カナダヤマアラシ朝、出産を確認。BW. 650g。
 7/21 ☀ ハクビシン (01年生仔) 出産。しかし、食害される。
 オオバタンヒナの鳴き声を確認する(1羽)。
 7/22 ☀ レッサーパンダ双子の赤ちゃんを確認。
 7/24 ☀ シフゾウ♂、起立不能。横臥のまま。点滴。ふれあい市立体育館にて出張ふれあいコーナー開催。
 7/26 ☀ シフゾウ♂、朝死亡を確認。
 7/27 ☀ 第27回写生大会開催
 オオバタンヒナ、夕方♀によって食害される。
 7/30 ☀ アオカケイ♀、死亡。♂、目の治療。
 7/31 ☀ ニホンリス1頭、巣の中で死亡しているのを確認。
 ウシ水飲容器に前肢を入れて涼んでいた。
 8/2 ☀ ニホンザル今年8頭目出産。
 8/3 ☀ サマーズキャンプ開催。(~8/4)
 8/6 ♣/☀ 写生大会表彰式。
 8/7 ☀ キンパドリ♂死亡。
 ヤギ氷結果実を与える。
 8/11 ☀ オオハクチョウ越冬舎内にて、1頭死亡。食害と思われる。
 8/12 ☀ ハワイガン5羽捕まえて性別チェック。
 8/14 ☀ ナイトズー1日目。4,554人入園。
 なかよしタイム"昼"231名参加。夜)①1,258名参加。②814名参加。"
 8/15 ☀ ペンギン今年生まれのヒナ2羽がプールで泳いでいた。
 ナイトズー2日目。4,466人入園。
 なかよしタイム"昼"427名参加。夜)①1,027名参加。②810名参加。"
 8/18 ☀ ハワイガン朝、首のない状態で死亡していた。テンによる食害と思われる。
 8/19 ☀ チンパンジーのジェーン、出産。
 8/20 台風 臨時休園。復旧作業
 8/23 ♣ オオバタン♂朝、死亡を確認。
 8/24 ☀/♣ なかよしタイム一般54名参加。
 8/25 ☀ チンパンジージェーンと共に仔を展示場に出す。
 8/28 ☀ サル山野生のサルが出没。害はなく、夕方にはいなくなっていた。
 8/31 台風 チンパンジージェーンの子が死亡しているのを確認。
 臨時休園。復旧作業
 9/1 ☀ コウノトリ♂が♀の展示場に入り同居。特に外傷なし。
 カナダヤマアラシ♂と判明(1ヶ月16日目)。
 9/8 ♣ ワタボウシパンシエ♀1♀1を出産したが、放棄しており、死亡。
 9/9 ☀ トナカイ成♀起立不能。点滴。
 9/10 ☀ トナカイ成♀、午後死亡。
 9/17 ☀/♣ ニホンザル♀(66)18才、死亡。
 コモンマーモセットLペア、2仔出産。
 9/18 ♣ ヒツジ♀2、毛刈り。
 9/21 ☀ チンチラ涼しくなったので病院から帰還。
 9/23 ☀ 動物愛護フェスティバル2004開催。
 9/25 ☀ アナグマ♂、朝仰向けでケイレンを起こしていた。病院に収容後死亡。
 9/29 ♣/☀ レッサーパンダ両方ともみらしい。B/W1.6kgと1.2kg。
 10/4 ♣ ニホンザル♀No. 56(11才)死亡。
 10/8 ☀ アビシニアコロブス♂1頭死亡。

飼育動物数

| | 種類 | 点数 |
|-----|-----|-----|
| 哺乳類 | 58 | 311 |
| 鳥類 | 56 | 209 |
| 爬虫類 | 10 | 36 |
| 両性類 | 4 | 19 |
| 魚類 | 3 | 19 |
| 合計 | 128 | 575 |

(平成16年9月末現在)

編集後記

8Pのかたばた通信で紹介している「動物園音楽フェスティバル」で、私は生涯忘れられない「感覚」を味わった。日新小学校吹奏楽部、バル・ヴィエントス、どちらの演奏もまさに『動物園の自然との大融合』。「動物園と音楽」言葉で表わすと微妙な何ともいえない組み合わせであるが、私のファースト・インスピレーションは「心が震えるほどのマッチング」であった。イベントを終えた職員の第一声は、一同に「またやろうよ!」。きっとお客様の中でも同じ感覚を味わった方がいらっしやっただに違いない。

— 柴田典弘 —

キリン「モモとたいよう」母子像除幕式



佐竹秋田市長といっしょにモニュメント除幕時の記念撮影
(中心に母子像)

親子のふれあいや情愛を感じ取って頂きたいとの願いを込め、国際ソロプチミスト秋田の認証30周年と秋田ベンチャークラブの認証10周年を記念し、両団体からキリン「モモとたいよう」母子像(銅板鍛金像)が寄贈され、佐竹敬久秋田市長ほかたくさんの方の参加で7月25日に除幕式が行われました。作品は秋田市在住の彫金作家・サム工房(佐々木勇さん)が半年がかりで制作したものです。なお、像のタイトルは秋田市立浜田小学校の児童が考えた「いっしょだよ」に決まりました。

動物園音楽フェスティバル (8/7)



大自然の中で「のびのび」気持ちよく
(日新小学校吹奏学部)



幻想的な「夕暮れ」を背に
(ベル・ヴィエントス)

開園延長最終日となった8月7日、日新小学校吹奏楽部による演奏会と、ベル・ヴィエントスによるフォルクローレのイブニングコンサートが園内ピクニック広場特設会場にて開催されました。大森山動物園は、「新しい動物園の活用法」を模索しておりましたが、園内の大自然をバックに奏でられた今回の音楽フェスティバルは、想像をはるかに上回る壮大さで、とても素晴らしいものとなりました。また、お客様にも大変喜んでいただけたようで、来年も是非開催できればと願っております。